

## 守ろう憲法 輝け未来

福岡

子育て・教育を考えるつどい 開く

安倍内閣がいよいよ9条改憲に走り出そうとする緊迫した情勢のもと、  
12月10日(日)、福岡県教育会館にて「守ろう憲法 輝け未来 ～ 子育て・教育を  
考えるつどい」が開催されました。「記録集」が出来ましたのでお送りいたします。



4月以降、教育子育て九条の会と福岡県のさまざまな市民団体や労働組合などが実行委員会を開いて準備を重ねてきました。教育子育て九条の会はこれを第10回全国交流集会和位置づけて、全国のみなさんに参加を呼びかけました。「つどい」には福岡県をはじめ、佐賀、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄、さらには全国各地から226名が参加し、大変充実した学習と交流のひとときとなりました。保育、教育に携わる職員や保護者、市民団体、大学生・大学院生など、青年から年配者までさまざま、特に女性の姿が目立ちました。

2つのシンポジウムや各地の活動の紹介などを通して、憲法と子育て・教育をめぐる危機とたたかい、幼児期からの成長・発達や主権者としての成長を支えるために、学校や地域、社会がどのように理解を深めあい手をつないでいく必要があるかを考えあいました。

教育子育て九条の会の呼びかけ人やスタッフも9名が参加。早朝の飛行機であわただしく会場に到着し、終了後はご苦労さん会で実行委員のみなさんと成功を喜びあい、夜の便であわただしく羽田へ帰りました。

裏面で、感想文のいくつかをご紹介します。

今回は特に交通費がかかることをふまえ、カンパの呼びかけを何度もさせていただきましたが、福岡の各団体が事前に集めてくださったカンパや集会当日の参加者のカンパをはじめ、全国から寄せていただいたカンパにより、「つどい」は何とか赤字を出さずにすみました。ご支援、本当にありがとうございました。

今後、記録集の作成・送付にかかる費用や、2018年のさまざまとりくみに対して、皆さんのさらに大きなご支援をお願いいたします。

**安倍9条改憲NO! いまこそ憲法を 子育て・教育や暮らしに生かそう!**

**3000万 人署名 を集めましょう!**

まだ署名されていない方があれば  
お願いし、さらにひろげてください。署名は  
当会または直接「市民アクション」へ!

安倍首相は「9条1、2項はそのままにして自衛隊の存在を書き込むだけ」と言い、自民党は今通常国会にも「改憲案」を出そうとしています。しかし、安全保障法(「戦争法」)により、海外で武力行使ができるようにされた自衛隊を9条に書き込めば、「9条の名によって」海外で戦争に参加する危険が現実のものに! 改憲発議をストップさせるために、急いで世論を大きく盛り上げる必要があります。

さまざまな団体・個人が各地で署名を展開していますが、教育子育て九条の会もとりくみます!

いつもひとりで色々と考えていることを、いろんな先生の話を知ることができて良い一日になりました。託児、本当に助かりました！！ありがとうございました。(新婦人、30代、女)

香山さんの「悩む・迷う権利」について、とらえなおさなければならない。内面の問題を自分で語ることをとりもどすことが大事と感じました。ヒロシマ・呉の「種まき」について印象に残りました。

(久留米大学学生、20代、男)

呉や山口から来ていただき、福岡にいたらわからない状況だったり、内容だったり、知ることができてよかった。

(福岡東部子ども劇場、40代、女)

安倍「教育再生」－教育基本法「改訂」－新学習指導要領－「道徳の教科化」－憲法「改正」・沖縄問題が一つの流れとして大きく把握することができた。香山さんが話された「思い悩む権利、迷う権利」が、来年度からの新学習指導要領の先行実施や教育現場の多忙化の中で、ますます保障することが難しい状況になっていくのか危惧します。

(全教北九州市教職員組合、60代、男)

田中孝彦さんが冒頭に話された福井の「指導死」のお話、このところすごく気になっていた事案についてわかりやすいお話でした。学校側(教員側)の責任を追求すること、しかしなぜ、「学校・教師」がそのようなことをするに至ったか、そういう社会のあり方に鋭くメスを入れる必要があると思います。

(北九州子どもと教育のために手をつなぐ会、50代、女)

保育の現場から、政府の変な方針が入り込んできているんだなとびっくりしました。世の中の青年の自殺、教育現場のゆがみ、殺人事件、いじめ、不登校の問題など関連のある問題だなと思いました。

基地近くに保育園、小学校。自衛隊のPRが教育の中に肅々と浸透してくるんだなとびっくりしました。教育の現場に、もっとしっかり子どもを守ってほしいと思いました。子どもの教育の場のあり方も、親も関心をもって関わりをもっていけないといけないなと思いました。

(看護師、30代、女)

## ついで感想文から

戦後の日本の教育が10年間は民主主義教育だったが、その後、戦前教育を復活させようという動きが安倍政権の「教育再生」によって、さらに改憲によって完成させられようとしているのだと知り、背筋が寒くなりました。子どもの権利条約が児童福祉法に取り込まれていることを知り、新自由主義的政策に沿った教育に抗う流れもキチンとあるのだと、少しホッとしました。(40代、女)

私も教育現場にいるものとして、学習指導要領、道徳、子どもの心と体などについて危機感を感じています。その原因などについて論理的に明らかにしていただいたことで、今後自分でできることのヒントを得ることができました。政治を変えることが第一ですが、まず子どもたちに憲法と子どもの権利条約について、様々な機会ですぐ話することが大切ということがわかりました。何かしなくてはと思い参加しましたが、本当によかったです。(教員、50代、男)

保育、香山さん、若い世代の方の話、迷う、悩む、ためらう力が必要。ポジティブ、未来志向、前向きだけでいいのかという話は新鮮で、考える力、逡巡する力が必要。答が先の社会。読んで考える力に対し、見て感じる事が重要視されている…なるほどと思いました。

(新日本婦人の会、60代、女)

上原さんの話が興味深かったです。憲法を生かして自分の権利を守り、言葉に出していく。民主主義は一人ひとりが意識していないと奪われてしまう危機感を新たにしました。

(筑紫教育を考える会、50代、女)

私も同世代として、若い母親がケータイばかり見て子育てしているのを苦々しく思っていました。けれど当人の言葉で「周りに心を開いて悩みを語れる母親仲間がいない。公園に子どもをつれていっても、自分は周りに気を使って本音の相談なんかできない。でもネットで子育てのつらさを書けば、すぐに全国から暖かい励ましやアドバイスをもらえて、自分のつらさをわかってくれる人がいるということが唯一、自分の孤独な子育ての中の喜びになっている」ということを聞いて、時代の変化を感じ、これまでの古い価値観で若い人を批判してはいけないと思いました。「日本シネ！」もその問題はまさにネットを通じて広がったのですから、このツールを私たちももっと使うべきとは思いませんか？

(子どもの本9条の会)

